

ユーザマニュアル

2025年4月1日

1.0版

Copyright (c) 2025 Santec Japan Corporation

本書の目的

内容

本書は、DATA SEALED SAFER ユーザクライアントの基本的な操作や運用手順について、説明しています。

前提と対象者

本書は、DATA SEALED SAFER ユーザクライアントを利用する方を対象としております。また、 Windows の基本的な操作方法を習得していることが前提です。

目次

1.	그-	-ザクライアントのインストール	
-	1.1	動作環境	
-	1.2	インストール手順	4
2.	ユ -	-ザクライアントの起動	6
ź	2.1	起動手順	6
2	2.2	終了手順	9
3.	고-	−ザクライアントの利用	12
3	3.1	ファイルやフォルダの暗号化	
3	3.2	ファイルやフォルダの復号	
	3.3	ファイルやフォルダの完全消去	
	3.4	ユーザの権限	
3	3.5	暗号化ファイルの有効期間	
3	3.6	接続先サーバの変更	
3	3.7	ID ファイル情報の更新	
	3.8	ID ファイルのパスワードの変更	24
4.	オフ	7ライン時の利用	26
2	4.1	ID ファイルのオフライン有効期限	
2	4.2	オフライン環境で制限される機能	
5.	暗号	き化ファイルの利用	29
5	5.1	対応アプリケーションでの利用	
5	5.2	対応アプリケーション以外での利用	
ŗ	5.3	ログ取得	
Ę	5.4	バックアップ機能	
6.	制限	艮 • 注意事項	
6	5.1	主な制限・注意事項	
(5.2	AdobeReaderX 以降の保護モードについて	
6	5.3	MicrosoftOffice の保護ビューについて	

1. ユーザクライアントのインストール

DATA SEALED SAFER ユーザクライアントのインストールは、後述の手順にて実施してください。 インストール作業に際しては必ず、Windows に対して管理者権限を持つユーザでログオンした上で行ってください。

1.1 動作環境

DATA SEALED SAFER の動作環境につきましては、別紙「**DATA SEALED SAFER** 動作環境.pdf」 をご参照ください。

1.2 インストール手順

- インストーラ「DSSUSetup_5_18_3.exe」を任意のフォルダに配置し、右クリックメニュー「管理者として実行」からインストールを行います。
- ② ユーザアカウント制御(UAC)の設定によっては以下メッセージが表示されることがあります。その場合は「はい」をクリックします。



③ 確認メッセージが表示されますので「はい」をクリックします。



 ④ 使用許諾契約書が表示されますので、内容をご確認のうえで問題が無ければ「はい」を選 択します。

DATA SEALED SAFER インストール	_		×
次の使用許諾契約をお読みください。PageDown キーを使って	(スクロール	してください	۱.,
DataClasys 製品使用許諾契約書 重要 - 以下を注意深くお読み下さい。 「DATA SEALED SAFER」は株式会社データクレシスが開発/ 「DataClasys」をベースとして提供されます。よって、「DATA SE 用にあたっては、この「DataClasys 製品使用許諾契約書」を ことができます。なお、この「DataClasys 製品使用許諾契約書」を でDATA SEALED SAFER」に「この指定する代理店」を「san 社」に読み替えるものとします。また、「DATA SEALED SAFER 入されたライセンスに適用される使用期間となり、この「DataC 諾契約書」の全ての条項に同意をされることで「DATA SEALE 使用期間ご使用いただくことができます。なお、「DATA SEALE 権・商標権は「DataClasys 製品使用許諾契約書」2. 著作 らず santec Japan株式会社に帰属します。	販売する ALED SA 承諾の上 引の「Da thec Japa Jの使用 ED SAFEF ED SAFEF 崔等の定	NFER」を使る taClasys」 明健使をする 引いた 部で に た の に か か か の た の た の に で た の に の に の に の に の に の に の に の に の に の	
使用許諾契約に同意されますか? [いいえ] を選ぶとインストール ルするには、この契約に同意してください。	しを中止し	ます。インス	۲ ⊢
はい(Y)		いいえ()	U)

⑤ インストールが終了すると PC の再起動を促すメッセージが表示されます。再起動が問題なけ れば「はい」をクリックします。



「いいえ」をクリックすると、すぐに再起動ではなく任意の良いタイミングで再起動を行う事 ができます。

その際は、シャットダウンではなく必ず「再起動」の実施をお願いいたします。

※PCの設定によってはシャットダウン・電源起動ではインストールが反映されない場合がございます。

⑥ PCの再起動が終了したらインストール作業は完了です。

2. ユーザクライアントの起動

暗号化ファイルを利用するには DATA SEALED SAFER ユーザクライアントを起動する必要があります。

ユーザクライアントを起動するための ID ファイルを DATA SEALED SAFER の管理者より受領してください。

2.1 起動手順

- DATA SEALED SAFER ユーザクライアントのインストール後、DATA SEALED SAFER の ID ファイルをダブルクリックします。
- ② パスワードの入力画面が起動します。初期パスワードを設定していない場合は、 そのまま「OK」ボタンをクリックします。

💷 DATA SEALED SAFER - IDファイルの選択	×
り IDファイルを選択してください。	
IDファイル(1): C:¥Users¥DataClasysAdmin¥AppData¥Local¥DATA S	参照(B)
パスワード(P):	
OK キャンセル 接続先(S)	ヘルプ(H)

③ 初回起動時にパスワードがポリシーに合致していない場合、パスワード設定画面が表示されます。パスワードの設定を行ってください。2回目以降の起動時には、パスワード変更画面は表示されません。



「現在のパスワード」はブランクのまま「新しいパスワード」、「再入力」に新しいパスワード を入力し「変更」をクリックしてください。

💶 DATA SEALED SAFER - パスワードの変更 🛛 🗙
IDファイルのパスワードを変更します。
現在のパスワード(0):
- ✓ パスワードを使用する(U)
新しいパスワード(N): ●●●●●●●●●
再入力(R):●●●●●●●●●●
8文字以上、128文字以下 アルファベットの大文字小文字を区別する、小文字1文 字以上、大文字1文字以上
数字1 乂字以上 英字・数字以外の記号1 文字以上
変更 キャンセル ヘルプ(H)

 ④ タスクバーに DATA SEALED SAFER アイコンが表示されたら DATA SEALED SAFER は起動 しています。



2.2 DATA SEALED SAFER ユーザクライアントの自動起動設定

管理者より受領した DATA SEALED SAFER の ID ファイルを以下のフォルダにコピーします。

C:¥Users¥(Windows のユーザ名)¥AppData¥Roaming¥Microsoft¥Windows¥Start Menu ¥Programs¥Startup

② 次回以降 Windows ログイン後にパスワードの入力画面が起動するので設定したパスワード を入力し OK を押してください。

🧕 DATA SEALED SAFER - IDファイルの選択	2	×
IDファイルを選択してください。		
IDファイル(1): C:¥Users¥DataClasysAdmin¥AppData¥Local¥DATA S	参照(B)	
パスワード(P):		
OK キャンセル 接続先(S)	ヘルプ(H)	

③ タスクバーに DATA SEALED SAFER アイコンが表示されたら DATA SEALED SAFER は起動 していま<u>す。</u>



2.3 終了手順

DATA SEALED SAFER ユーザクライアントは通常、ご利用の PC のシャットダウンと同じタイミングで自動終了されるため、特別な操作は必要ありません。

手動で終了する場合は、タスクトレイに表示された DATA SEALED SAFER ユーザクライアントの アイコンをクリックし、「ユーザクライアントの終了」をクリックします。



この際以下のケースでメッセージ画面が表示され、ユーザクライアントの終了処理が中断される 場合があります。

その際はそれぞれ画面に表示された内容に準じた対応を行ってから、再度 PC のシャットダウン操 作やユーザクライアントの終了操作を行ってください。

■ 暗号化ファイルにアクセスしているアプリケーションが存在する場合

暗号化ファイルを開いたままなど、暗号化ファイルにアクセスしているアプリケーションが 存在する場合、下例の画面が表示されます。

DATA SEALED SAFERユーザクライアント

Х

OK

1	暗号化ファイルを使用したアプリケーションが起動しているために、DATA SEALED SAFER ユーザクライアントを終了することができません。 以下のプロセスを終了してから、再度DATA SEALED SAFER ユーザクライ アントを終了してください。 プロセス: C:¥Windows¥system32¥NOTEPAD.EXE プロセスID: 6880

このメッセージが表示された場合は「OK」より画面を終了し、「プロセス」欄に表示されているアプリケーションを終了してから、PCのシャットダウン操作等を行ってください。

■ 暗号化ファイルが復号され、平文のまま残っている場合

標準では暗号化ファイルが復号され、平文のまま残っている場合は、再暗号化や削除の処理を 促す下例の画面が表示されます。

_	DATA SEALED SAFE	R - 復号ファイルの処理				×
	以下のファイル 動 復号されたまま	は、復号されたままになっています。 にしておくと漏洩の危険がありますので、I	暗号化またはテ	宅全消去を行うことを推奨します。		
	未処理ファイルリスト(L):					
	日時 2025/02/25 10:03:33	ファイル test.txt (O:¥Users¥	¥Desktop)	カテゴリ データ窃取・漏洩対策(/暗号化)	有効期間 無期限	
	全て暗号化(A)	暗号化(E) 完全消去(V)	[終了(X) キャンセル	ヘルプ(H)	

この場合は、画面下部の各ボタンより適した処理を行った上で、PC のシャットダウン操作等 を行ってください。

ボタン	内容
全て暗号化	リスト上のファイル全てを、元の暗号化カテゴリで暗号化した上
	で、ユーザクライアントを終了します。
暗号化	リスト上のファイルのうち、選択したファイルを元の暗号化カテ
	ゴリで暗号化します。
	リスト上のファイルが1つだけだった場合は、対象ファイルを暗
	号化した上でユーザクライアントが終了しますが、複数ある場合
	は、この操作で暗号化されたファイルはリストから削除され、次
	のファイルに対してのボタン入力を待機します。
完全消去	リスト上のファイルのうち、選択したファイルを完全消去しま
	す。
	完全消去の際、複数回確認の画面が表示されますので、問題なけ
	ればそれぞれ「はい」をクリックして処理を続行してください。
	リスト上のファイルが1つだけだった場合は、対象ファイルを完
	全消去した上でユーザクライアントが終了しますが、複数ある場
	合は、この操作で完全消去されたファイルはリストから削除さ
	れ、次のファイルに対してのボタン入力を待機します。

終了	復号したままのファイルは平文のまま残し、ユーザクライアント
	を終了します。
	この操作を行った際、以下の確認メッセージが表示されます。
	DATA SEALED SAFERユーザクライアント ×
	役号されたファイルが平文のまま残っている可能性があります。 このまま終了してもよろしいですか?
	はい <u>の</u> いいえ(N)
	該当ファイルが平文ファイルのまま残っても問題無い場合は、
	「はい」をクリックして処理を続行してください。
キャンセル	ユーザクライアントの終了をキャンセルします。



DATA SEALED SAFER ユーザクライアントを用いて暗号化ファイルを利用する操作を記載します。

3.1 ファイルやフォルダの暗号化

DATA SEALED SAFER ユーザクライアントは、ファイルやフォルダを右クリックした際のメニュ ー操作により、対象のファイルやフォルダごと暗号化することができます。

フォルダやファイルを暗号化する際は、暗号化の権限を持つ適切な ID ファイルを使用して DATA SEALED SAFER ユーザクライアントにログオンし、ファイルやフォルダを右クリックして表示されるコンテキストメニューより「DATA SEALED SAFER で暗号化」をクリックすると、下例の暗号化操作画面が表示されます。

※Windows のバージョンによって、「Shift キー+右クリック」の場合がございます。

機密情報.txt	開く(O) 印刷(P) 編集(E)	
	DATA SEALED SAFER T DATA SEALED SAFER T DATA SEALED SAFER T	☞暗号化(E) ☞復号(D) ☞完全消去(C)
OATA SEALED SAFER - 暗 暗号化カテゴリを選 暗号化を行うファイル(F): 機密情報txt(C:\Users\U 暗号化カテゴリリスト(C): データ窃取・漏洩対策(/暗・)	済号化カテゴリの選択 Rしてください。 → ¥Desktop) 号化)	
暗号化ファイルの有効期間: 無期限		カテゴリリストの更新(U) 変更(V)
暗号化(E) キャンセ	JL	ヘルプ(H)

この画面では以下項目の情報及び操作ボタンが表示されます。

暗号化するファイルが正しいことを確認し、「暗号化カテゴリリスト(C):」内の「データ窃取・漏洩 対策(/暗号化)」を選択して「暗号化」ボタンをクリックすることにより、設定した内容で暗号化 の処理が行われます。

項目	内容
暗号化を行うファイル	暗号化対象のファイル名が表示されます。
	フォルダを選択して操作を行った場合は、フォルダ内の暗号化対
	象ファイルが全て表示されます。
暗号化カテゴリリスト	現在ログオン中の ID ファイルで暗号化権限を持つカテゴリの一
	覧が表示されます。
	DATA SEALED SAFER では、表示されるカテゴリは1つです。
カテゴリリストの更新	ID ファイルの更新を行い、即時に DATA SEALED SAFER サー
	バに適用された権限などの設定を反映します。
	暗号化操作時に、操作ユーザが暗号化カテゴリに対しての権限設
	定の変更を受けている可能性がある場合などに使用します。
暗号化ファイルの	暗号化ファイルに設定する有効期間を表示します。
有効期間	有効期間を設定していない場合は、「無期限」と表示されます。
	この項目についての詳細は、後述の「3.5 暗号化ファイルの有効
	期間」をご参照ください。
変更	暗号化ファイルの有効期間の設定画面を表示します。
暗号化	設定した内容でファイルを暗号化します。
キャンセル	暗号化処理をせず画面を閉じます。

ファイルやフォルダを暗号化すると以下のような動作となります。

暗号化処理実行中は、PC 画面右下に通知メッセージが表示されます。
 暗号化の操作は複数のファイルやフォルダを選択して実行できますが、通知メッセージ内の「中止」ボタンをクリックすると、実行中の暗号化の処理が中止され、該当のファイルを含め、それ以降の暗号化待機中ファイルの暗号化も全てキャンセルされます。

● ファイルが暗号化されるとファイルのアイコン表示に下例のアイコンが追加されます。



フォルダの暗号化を行った場合、該当フォルダ内のファイルは暗号化され、ファイルアイコ ンにアイコンが追加されますが、フォルダ自体は暗号化されないためフォルダアイコンには このアイコンは追加されません。

- 暗号化されているファイルであっても、DATA SEALED SAFER ユーザクライアントがインス トールされていない環境では、アイコンは表示されません。
 同様にメールに添付された暗号化ファイルや、ファイル管理システムなどにアップロードさ れた暗号化ファイルについても、アイコンが表示されない場合があります。
- 既に暗号化されているファイルに対して、重ねての暗号化は行われません。(二重、三重の暗号化はされません。)
 フォルダに対して暗号化処理を実行した場合、対象フォルダ及びそのサブフォルダ内のファイルが全て同一条件(暗号化カテゴリや有効期間など)で暗号化されますが、対象フォルダ内で既に暗号化されたファイルが存在する場合、そのファイルに対する暗号化の処理はスキップされ、そのファイルを最初に暗号化した状態のままとなります。
 これは直接暗号化ファイルを選択して暗号化しようとした際も同じです。
- なお一度に多量のファイルやフォルダを選択して暗号化の操作を行った場合、Windows が一度に扱える文字数の制限により、処理が実行されない場合があります。

● 暗号化の処理を行う対象ファイルがアクセス中や、ファイルに対する Windows アクセス権限 が不足しているなど、ファイルにアクセスできない場合は、下例の画面が表示され、暗号化処 理が中断します。

data sea	LED SAFERユーザクライアント	×
i	平文ファイルを書き込むためのオープンに失敗しました。 平文ファイル: C:¥Users¥ ¥Desktop¥機密情報. docx Code: 0x2300023C, errno: 0, GetLastError: 32, WSAGetLastError: 32	
	ОК	

この場合は「OK」をクリックして、続けて表示される下例の画面より適切なボタンをクリックし、処理の終了や継続を行ってください。

DATA SEALED SAFERユーザクライアント		×
? ファイルの暗号化に失敗しました。 ファイル:機密情報.docx パス:C:¥Users¥	¥Desktop	
中止(A) 再試行(R)	無視(I)	

ボタン名称	内容	
中止	暗号化処理を中止します。	
	複数対象選択時にこの操作を行うと、現在処理対象ファイルの暗号化処理及び、	
	後続のファイルに対する暗号化処理も全てキャンセルされます。	
再試行	対象ファイルへの暗号化処理を再試行します。	
無視	対象ファイルの暗号化処理をスキップします。	
	複数対象選択時にこの操作を行うと、次のファイルの暗号化処理が行われます。	

複数選択したファイルやフォルダに対して処理中に上記のメッセージが表示された場合、画 面操作を行うまでは後続の処理は中断されます。 また画面はファイル暗号化処理が行えないファイル数分、都度表示されます。

- 以下の種類のファイルは、DATA SEALED SAFER の仕様により暗号化されません。
 - ・ショートカットファイル
 - ・システム属性のファイル
 - ・隠し属性のファイル
 - ・一時属性のファイル

3.2 ファイルやフォルダの復号

DATA SEALED SAFER で暗号化されたファイルは、**DATA SEALED SAFER** ユーザクライアントを 使用して復号し、平文ファイルに戻すことができます。

暗号化ファイルを復号する場合は、ファイルやフォルダを右クリックし、表示されるコンテキスト メニューより「DATA SEALED SAFER で復号」をクリックします。



暗号化とは異なり、復号時は暗号化カテゴリの選択画面等は表示されず、復号が完了するとファイ ルアイコンに追加されていたアイコンの表示が消えます。

復号の操作は複数のファイルやフォルダを選択して実行できますが、右下に表示される通知メッ セージ内の「中止」ボタンをクリックすると、実行中の復号処理が中止され、該当のファイルを含 め、それ以降の復号待機中ファイルの復号も全てキャンセルされます。

なお一度に多量のファイルやフォルダを選択して暗号化の操作を行った場合、Windows が一度に 扱える文字数の制限により、処理が実行されない場合があります。 また復号の処理を行う対象ファイルがアクセス中や、ファイルに対する Windows アクセス権限の 不足、復号権限の不足などにより復号処理が行えない場合は、下例の画面が表示され、復号処理が 中断します。

DATA SEA	LED SAFERユーザクライアント	×
1	暗号化ファイルを読み込むためのオープンに失敗しました。 暗号化ファイル: C:¥Users¥ docx Code: 0x2300025C, errno: 0, GetLastError: 32, WSAGetLastError: 32	
	ОК	

この場合は「OK」をクリックして、続けて表示される下例の画面より適切なボタンをクリックし、 処理の終了や継続を行ってください。

DATA SEALED SAFERユーザクライアント		\times
? ファイルの復号に失敗しました。 ファイル:機密情報.docx パス:C:¥Users¥	¥Desktop	
中止(A) 再試行(<u>R</u>)	無視(<u>l</u>)	

ボタン名称	内容
中止	復号処理を中止します。
	複数対象選択時にこの操作を行うと、現在処理対象ファイルの復号処理及び、
	後続のファイルに対する復号処理も全てキャンセルされます。
再試行	対象ファイルへの復号処理を再試行します。
無視	対象ファイルの復号処理をスキップします。
	複数対象選択時にこの操作を行うと、次のファイルの復号処理が行われます。

複数選択したファイルやフォルダに対して処理中に上記のメッセージが表示された場合、画面操 作を行うまでは後続の処理は中断されます。

また画面はファイル復号処理が行えないファイル数分、都度表示されます。

なお復号は必ず、DATA SEALED SAFER サーバとの通信が必要な処理となります。

オフライン時など、DATA SEALED SAFER サーバとの通信ができない状況では、ファイルの復号 は行えませんので、ご注意ください。

3.3 ファイルやフォルダの完全消去

DATA SEALED SAFER ユーザクライアントには、機密性の高いファイルを、復元ツールなどを使用しても復元できない状態で完全に消去する機能があります。

暗号化ファイルを完全消去する場合は、そのファイルを暗号化している暗号化カテゴリに対して、 完全消去の権限を所有している ID ファイルで DATA SEALED SAFER ユーザクライアントにログ オンしている必要がありますが、平文ファイルに対して完全消去を行う場合は、有効期間内の ID ファイルで DATA SEALED SAFER ユーザクライアントにログオンしている状態であれば処理を実 行することができます。

完全消去を行う場合は、ファイルやフォルダを右クリックし、表示されるコンテキストメニューより「DATA SEALED SAFER で完全消去」をクリックします。

a	開く(O)
機密情報.txt	印刷(P)
	編集(E)
	DATA SEALED SAFERで暗号化(E)
	DATA SEALED SAFERで復号(D)
	DATA SEALED SAFERで完全消去(C)

この際、完全消去の確認画面が2回表示されますので、問題なければそれぞれ「はい」をクリック

し、完全消去を行って下さい。

DATA SEALED SAFERユーザクライアント ×		
このファイルを完全消去してもよろしいですか? ファイル:機密情報.txt パス: C:¥Users¥		
はい(Y) いいえ(N)	DATA SEALED SAFERユーザクライアント	×
	ファイルの完全消去を行うと、そのファイルはゴミキファイル復元ユーティリティ等で復元することもできですか? ファイル:機密情報.txt パス: C:¥Users¥ ¥Desktop	iにも保存されませんし、 なくなりますが、よろしい
	(at	ν(Y) いいえ(N)

完全消去の操作は、複数ファイルやフォルダを選択して行う事もできますが、右下に表示される 通知メッセージ内の「中止」ボタンをクリックすると、実行中の完全消去の処理が中止され、該当 のファイルを含め、それ以降の完全消去待機中ファイルの処理も全てキャンセルされます。

なお一度に多量のファイルやフォルダを選択して暗号化の操作を行った場合、Windows が一度に 扱える文字数の制限により、処理が実行されない場合があります。 また、完全消去の処理を行う対象ファイルがアクセス中や、ファイルに対する Windows アクセス 権限の不足、完全消去権限の不足などにより処理が行えない場合は、下例の画面が表示され、処理 が中断します。

DATA SEA	LED SAFERユーザクライアント	\times
1	ファイルを書き込むためのオープンに失敗しました。 ファイル: C:¥Users¥ ¥Desktop¥機密情報.docx Code: 0x2300021A, errno: 0, GetLastError: 32, WSAGetLastError: 32	
	OK	

この場合は「OK」をクリックして、続けて表示される下例の画面より適切なボタンをクリックし、 処理の終了や継続を行って下さい。

DATA SEALED SAFERユーザクライアント	×
ファイルの完全消去に失敗しました。 ファイル:機密情報.docx パス: C:¥Users¥	
中止(A) 再試行(R) 無視(I)	

ボタン名称	内容
中止	完全消去処理を中止します。
	複数対象選択時にこの操作を行うと、現在処理対象ファイルの完全消去処理及び、
	後続のファイルに対する完全消去処理も全てキャンセルされます。
再試行	対象ファイルへの完全消去処理を再試行します。
無視	対象ファイルの完全消去処理をスキップします。
	複数対象選択時にこの操作を行うと、次のファイルの完全消去処理が行われます。

複数選択したファイルやフォルダに対して処理中に上記のメッセージが表示された場合、画面操 作を行うまでは後続の処理は中断されます。

また画面は完全消去処理が行えないファイル数分、都度表示されます。

なお完全消去は必ず、DATA SEALED SAFER サーバとの通信が必要な処理となります。 オフラインモード時など、DATA SEALED SAFER サーバとの通信ができない状況では、ファイル やフォルダの完全消去は行えませんのでご注意下さい。

3.4 ユーザの権限

DATA SEALED SAFER では、ファイルに対して暗号化・復号・閲覧・更新・削除等の暗号化ファ イル利用に必要な権限が付与されています。

3.5 暗号化ファイルの有効期間

暗号化ファイルには有効期間を設けることができ、その期間を外れると該当ファイルへのアクセ スが拒否され、暗号化カテゴリへの適切な権限を所有していても、閲覧や更新などを制限すること ができます。

有効期間を設ける場合は、ファイルやフォルダの暗号化操作時の画面にて、「暗号化ファイルの有 効期間」欄横の「変更」をクリックします。

有効期間設定画面が表示されますので、ラジオボタンにて「期間指定」を選択し、開始日時と終了 日時を指定して「OK」をクリックして有効期間を設定します。

暗号化ファイルの有効期間:		
無期限		変更(V)
② DATA SEALED SAFER - 有効期間の影 暗号化ファイルの有効期間を設定 ()無期限(V)	定 × 宦してください。 2025/03/31 23:59:59まで	
○ 無効(1)		
 ● 期間指定(L) 開始日時(S) 2025年 2月25日 0:00:00 ○ 無指定(T) 	終了日時(E) 2025年 3月 31日 ■▼ 23:59:59 ●無指定(F)	
OK キャンセル	ヘルプ(H)	

この機能を利用し、対象のファイルを日時が来たら利用可能とするといった予約のような使用法もできます。

なお暗号化ファイルの有効期間は、デフォルトでは「無期限」で設定され、特に変更を加えない場 合は有効期間なく暗号化ファイルを扱うことができます。 3.6 接続先サーバの変更

DATA SEALED SAFER ID ファイルには、**DATA SEALED SAFER** サーバへの接続情報が格納されています。

DATA SEALED SAFER サーバの IP アドレスに変更があった場合は、接続設定の変更が必要になります。

接続先サーバの変更は、DATA SEALED SAFER ユーザクライアントのタスクトレイアイコメニュ ーより表示される画面で行います。

	DATA SEALED SAFERのウェブサイト(D) santec Japan株式会社のウェブサイト(W)
	ヘルプ(H) パージョン情報(A)
	ログの表示(L)
~	オフラインモード(O) オフライン優先(F)
C	IDファイル情報の更新(U) 接続先サーバの変更(S) パスワードの変更(P) バックアップフォルダの設定(B)
	ユーザクライアントの終了(X)

この画面では、プライマリ DATA SEALED SAFER サーバへ接続時に使用する情報(IP アドレス)の 指定ができます。

それぞれ適切な情報を指定し、「変更」をクリックして操作を終了してください。

「管理」欄の情報は、「プライマリ」欄で指定した DATA SEALED SAFER サーバに接続時、接続先 DATA SEALED SAFER サーバで設定されている内容を自動で取得します。

3.7 ID ファイル情報の更新

ID ファイルのオフライン有効期間など DATA SEALED SAFER ID ファイルに格納された情報をす ぐに更新したい場合、タスクトレイの常駐アイコンクリック時のメニューより「ID ファイル情報 の更新」をクリックして実行することができます。

	DATA SEALED SAFERのウェブサイト(D) santec Japan株式会社のウェブサイト(W)
	ヘルプ(H) パージヨン情報(A)
	ログの表示(L)
~	オフラインモード(O) オフライン優先(F)
С	IDファイル情報の更新(U)
	接続先サーバの変更(S) パスワードの変更(P) バックアップフォルダの設定(B)

更新が完了すると、下例のメッセージが表示されますので、「OK」をクリックして処理を終了して ください。

DATA SEA	LED SAFERユーザクライアント	×
1	IDファイルの更新が完了しました。 IDファイルのオフライン有効期限:2025/02/26 13:30:53	
	ОК]

3.8 ID ファイルのパスワードの変更

DATA SEALED SAFER の ID ファイルにはパスワードを設定できます。

このパスワードは、DATA SEALED SAFER ユーザクライアントを起動した際に表示される、ID フ ァイルの選択及びパスワードの入力画面で使用します。

パスワードの変更はタスクトレイの常駐アイコンクリック時のメニューより「パスワードの変更」 をクリックして表示される画面にて実行することができます。

	DATA SEALED SAFERのウェブサイト(D) santec Japan株式会社のウェブサイト(W)		
	ヘルプ(H) パージョン情報(A)		
	ログの表示(L)		
~	オフラインモード(O) オフライン優先(F)		
	IDファイル情報の更新(U) 接続先サーバの変更(S)		
L	パスワードの変更(P) バックアップフォルダの設定(R)	💷 DATA SEALED SAFER - パスワードの変更	\times
	ユーザクライアントの終了(X)	 Dファイルのパスワードを変更します。 	
		現在のパスワード(0): パスワードを使用する(U) 新しいパスワード(N): 再入力(R): パスワードポリシー 8文字以上、128文字以下 アルファベットの大文字小文字を区別する、小文字1文 字以上、大文字1文字以上 数字1文字以上 数字1文字以上 英字・数字以外の記号1文字以上]]
		変更 キャンセル ヘルプ(H)	

パスワードポリシーは「パスワードポリシー」欄に表示されます。

「現在のパスワード」欄に現在のパスワードを入力した上で、パスワードポリシーに準ずる新しい パスワードを「新しいパスワード」及び「再入力」欄に入力し、「変更」をクリックして操作を終 了してください。

なお新しいパスワードがポリシーに合致していない場合、下例の画面が表示されます。



この場合は「OK」をクリックして画面を閉じ、再度表示されるパスワードの変更画面より、ポリシーに合致した新しいパスワードを再入力してください。

4. オフライン時の利用

DATA SEALED SAFER サーバの設定により、DATA SEALED SAFER ID ファイルに DATA SEALED SAFER サーバとの通信なく利用できるオフライン有効期限は7日で設定されています。

この機能により、オフライン利用が許可された暗号化カテゴリで暗号化されているファイルについて は、DATA SEALED SAFER サーバと通信ができない環境においても、閲覧や更新などの一部の操作を 行う事ができます。

4.1 ID ファイルのオフライン有効期限

オフライン有効期限中は、DATA SEALED SAFER サーバに接続できない環境であっても DATA SEALED SAFER ユーザクライアントにログオンする事ができます。 ID ファイルにオフライン有効期限が設定されている場合、ファイルの閲覧や更新などの操作を、 DATA SEALED SAFER サーバに接続することなく行う事ができます。

ID ファイルに設定されたオフライン有効期限は、タスクトレイのアイコンにマウスオーバーして 表示されるテロップから確認できます。

DATA SEALED SAFER サーバに接続できない環境で **DATA SEALED SAFER** ユーザクライアント を起動すると、下例の画面が表示されます。

DATA SEALED SAFERユーザクライアント	\times
i DATA SEALED SAFERサーバへの接続に失敗しました。 プライマリホスト名: DSSServer プライマリポート番号: TCP9044 セカンダリホスト名: セカンダリポート番号: Code: 0x20030201, errno: 0, GetLastError: 0, WSAGetLastError: 0	
ОК	

「OK」をクリックすると、DATA SEALED SAFER ID ファイルがオフライン有効期限内であった 場合はそのまま DATA SEALED SAFER ユーザクライアントにログオンし、タスクトレイに DATA SEALED SAFER ユーザクライアントのアイコンが表示されます。



ID ファイルのオフライン有効期限が経過している場合は下例の画面が表示され、DATA SEALED SAFER ユーザクライアントにログオンする事はできません。

data se	ALED SAFERユーザクライアント	×
i	IDファイルのオフライン有効期限が切れています。 DATA SEALED SAFERサーバに接続して、オフライン有効期限を更新して ください。 Code: 0x2002020A, errno: 0, GetLastError: 0, WSAGetLastError: 0	
	ОК	

この場合は、DATA SEALED SAFER サーバに接続できる環境で DATA SEALED SAFER ユーザク ライアントにログオンする事により、新しいオフライン有効期限が自動的に取得され、再びオフラ イン状態で利用できます。

また DATA SEALED SAFER ユーザクライアントのログオン中にオフライン有効期限が切れてし まった場合は、DATA SEALED SAFER サーバに接続できる環境で以下の操作のどちらかを行う事 で、有効期限を更新する事ができます。

- ・DATA SEALED SAFER ユーザクライアントの再起動による更新
- ・タスクトレイアイコンのメニュー操作による更新

タスクトレイアイコンのメニュー操作は、タスクトレイアイコンをクリックして表示されるメニ ュー内の「IDファイル情報の更新」をクリックして行います。

IDファイル情報の更新(U)	
接続先サ−バの変更(S)	
パスワードの変更(P)	
バックアップフォルダの設定(B)	
ユーザクライアントの終了(X)	
∧ ⊲ _№ ⊑ Α 12:59 2025/04/01 □	

なお ID ファイルに設定するオフライン有効期限は7日(1週間)です。

オフライン状態での暗号化ファイルの利用については、次項「4.2 オフライン環境で制限される機能」をご参照下さい。

4.2 オフライン環境で制限される機能

以下の機能は、処理を行う際に必ず DATA SEALED SAFER サーバとの通信が必要です。

- ・暗号化ファイルの復号
- ・ファイルやフォルダの完全消去
- ・平文ファイルの暗号化

そのため、DATA SEALED SAFER サーバとの通信ができないオフライン環境では、ID ファイルが 有効期限内であってもこれらの処理は行われず、エラーとなります。

これらの機能を使用する際は必ず、DATA SEALED SAFER サーバとの通信が可能なオンライン環境で行って下さい。

5. 暗号化ファイルの利用

5.1 対応アプリケーションでの利用

DATA SEALED SAFER では、以下のアプリケーションを使用すると暗号化ファイルをダブルクリ ックや「アプリケーションから開く」等、従来の操作手順で利用する事ができます。

ジャンル	ソフトウェア
PDF リーダー	Acrobat Reader
Office アプリケーション	Office Word • Excel • PowerPoint
エディタ	メモ帳・ワードパッド・秀丸エディタ・EmEditor・TeraPad・NoEditor
画像エディタ	MS ペイント

ファイルを開く動作ではアプリケーションが起動し、暗号化したデータを復号して表示しますが、 この際開いている元のファイル自体は暗号化されたまま扱われます。 編集などを行った後に上書き保存してもファイルは暗号化されたままです。

5.2 対応アプリケーション以外での利用

対応アプリケーション以外で暗号化ファイルは正常に利用できず、エラーなどが発生します。 その場合は、ファイルを復号して利用してください。利用後は再度暗号化してください。

5.3 ログ取得

DATA SEALED SAFER ユーザクライアントの動作がおかしく、予期しないエラーの発生やファイ ル操作が行えない場合、DATA SEALED SAFER ユーザクライアントのログが原因調査の手がかり になります。

DATA SEALED SAFER ユーザクライアントのログの取得方法は、以下になります。

① デスクトップ右下のタスクトレイにある DATA SEALED SAFER アイコンを右クリックし、「ロ グの表示」を選択します。

	ログの表示(L)
~	オフラインモード(O) オフライン優先(F)
	IDファイル情報の更新(U) 接続先サーバの変更(S) パスワードの変更(P) バックアップフォルダの設定(B)
	ユーザクライアントの終了(X)
	∧ ⊲ _∞ ⊑ A ^{12:59} ↓

② 表示されたログ画面で、「Ctrl」と「S」を同時にクリックします。

DATA SEALED SAFER

☑ DATA SEALED SAFER — □ >			×	
日時	プロ	טֿט		^
2025/02/25 10:13:23	5736	DATA SEALED SAFERの制御を開始しました。プロセス: CLSUClient.exe		
2025/02/25 10:13:23	5736	DATA SEALED SAFERの制御を終了しました。プロセス: CLSUClient.exe		
2025/02/25 10:13:23	5736	DATA SEALED SAFERのDLLをアンロードしました。 プロセス: CLSUClient.exe		
2025/02/25 10:14:42	3992	DATA SEALED SAFERのDLLをロードしました。プロセス: CLSUClient.exe		
2025/02/25 10:14:42	3992	DATA SEALED SAFERの制御を開始しました。プロセス: CLSUClient.exe		
2025/02/25 10:14:42	3992	DATA SEALED SAFERの制御を終了しました。プロセス: CLSUClient.exe		
2025/02/25 10:14:42	3992	DATA SEALED SAFERのDLLをアンロードしました。 プロセス: CLSUClient.exe		
2025/02/25 10:15:15	1436	DATA SEALED SAFERのDLLをロードしました。プロセス: CLSUClient.exe		
2025/02/25 10:15:15	1436	DATA SEALED SAFERの制御を開始しました。 プロセス: CLSUClient.exe		
2025/02/25 10:15:15	1436	DATA SEALED SAFERの制御を終了しました。プロセス: CLSUClient.exe		
2025/02/25 10:15:15	1436	DATA SEALED SAFERのDLLをアンロードしました。 プロセス: CLSUClient.exe		
2025/02/25 10:15:31	3368	DATA SEALED SAFERのDLLをロードしました。プロセス: CLSUClient.exe		
2025/02/25 10:15:31	3368	DATA SEALED SAFERの制御を開始しました。 プロセス: CLSUClient.exe		
2025/02/25 10:15:32	3368	DATA SEALED SAFERの制御を終了しました。プロセス: CLSUClient.exe		
2025/02/25 10:15:32	3368	DATA SEALED SAFERのDLLをアンロードしました。プロセス: CLSUClient.exe		
2025/02/25 10:16:44	6116	DATA SEALED SAFERのDLLをロードしました。プロセス: CLSUClient.exe		
2025/02/25 10:16:44	6116	DATA SEALED SAFERの制御を開始しました。 プロセス: CLSUClient.exe		
2025/02/25 10:16:44	6116	DATA SEALED SAFERの制御を終了しました。プロセス: CLSUClient.exe		
2025/02/25 10:16:44	6116	DATA SEALED SAFERのDLLをアンロードしました。プロセス: CLSUClient.exe		
2025/02/25 10:19:34	3216	DATA SEALED SAFERのDLLをロードしました。プロセス: CLSUClient.exe		~

③ ログの出力先ファイルパスが表示されるので、ログファイルを取り出してください。ファイル はテキストエディタで開くことができます。

DATA SEA	LED SAFERユーザクライアント (C	LSUCore.dll)	\times
?	DATA SEALED SAFERユーザクラ た。 C:¥Users¥ SAFER¥UserClient¥CLSUMes フォルダを表示しますか?	イアントログを以下の場所に出力し AppData¥Local¥DATA SEALED sage.log	,tl
		はいの いいえ	(<u>N</u>)

ログファイルを取得する際は、以下の点にご注意ください。

- ・「Ctrl」と「S」キーでログをファイル出力する場合、同名ファイルは上書きされます。
- ・ログは 10,000 行蓄積することができます。それを超えると、古いログから削除されます。

・一度 DATA SEALED SAFER ユーザクライアントを終了してログをクリアしてから現象を再 現させることで、余分な内容が省かれ、解析しやすくなります。

5.4 バックアップ機能

DATA SEALED SAFER ユーザクライアントには、更新前の暗号化ファイルを自動的にバックプする機能があります。

作業中のファイルが何らかのトラブルにより破損するなどで使用できなくなってしまった際など に、設定されたバックアップフォルダから、更新前の暗号化ファイルを取り出すことができます。 バックアップファイルは更新や上書きされるごとに、操作直前の状態でファイル名の先頭に16桁 の識別コードが追加された状態でバックアップされ、同一ファイルであっても履歴保存されます。



バックアップフォルダの表示や設定は、タスクトレイの常駐アイコンクリック時のメニューより、 「バックアップフォルダの設定」をクリックして表示される画面より、実行することができます。

IDファイル情報の更新(U) 接続先サーバの変更(S) パスワードの変更(P) パックアップフォルダの設定(B)	
ユーザクライアントの終了(X)	💿 DATA SEALED SAFER - バックアップフォルダの設定 🛛 🗙 🗙
Image: Participation of the second state of the second	 ・ 暗号化ファイルのバックアップフォルダの設定をします。 バックアップフォルダのパス(P):

表示項目やボタンの機能は、下表の通りです。

項目	内容
バックアップフォルダ	現在設定されているバックアップフォルダパスを表示します。
のパス	入力による変更はできません。
バックアップフォルダ	バックアップフォルダを表示する際にボタンクリックします。
を表示する	別ウインドウでエクスプローラが起動し、フォルダ内容が表示さ
	れます。
バックアップフォルダ	バックアップフォルダ内のファイルを一括で削除する際にボタン
を空にする	クリックします。
	ボタンをクリックすると、下図のメッセージが表示されます。
	DATA SEALED SAFERユーザクライアント ×
	? バックアップフォルダを空にしてもよろしいですか?
	(はい(Y) しいえ(N)
	「はい」をクリックすると削除が実行され、完了すると下図のメッ
	セージが表示されます。
	DATA SEALED SAFERユーザクライアント X
	() バックアップフォルダ内のファイルを全て削除しました。
	ОК
暗号化ファイルの	バックアップ機能を使用する際にチェックを入れます。
バックアップを保存す	チェックを外すとこの機能は無効化され、暗号化ファイル更新時
る	のファイルバックアップは行われません。
バックアップフォルダ	バックアップファイルを保存する最大の総サイズを指定します。
の容量	デフォルトでインストールした場合は「1000MB」で設定されてい
	ます。
	DATA SEALED SAFER ユーザクライアント起動中はこの設定サイ
	ズを超えてバックアップファイルの保存が行われますが、DATA
	SEALED SAFER ユーザクライアントの終了時に、自動的に設定し
	たサイズ内まで更新日時の古い順から削除されます。
変更	設定内容を確定する際にボタンクリックします。
キャンセル	設定内容を変更せずに終了する際にボタンクリックします。

なおバックアップファイルを使用する際は、バックアップフォルダから別のフォルダに移動し、 識別コードを削除するなどしてご利用ください。

6. 制限·注意事項

6.1 主な制限・注意事項

- ファイルを暗号化することで、ファイル当たりのサイズが1KB程度増加します。ディスク容量の不足が発生すると、ファイルは暗号化に失敗します。ディスク容量には余裕を持たせる事を推奨します。
- ② ウイルス対策アプリケーションは、暗号化ファイルから復号せずにデータを読込むために、ウィルスパターンによる検知ができないことがあります。
- ③ ストアアプリ版 Office (Word、Excel、PowerPoint) は暗号化ファイルを扱うことができません。 デスクトップアプリケーション版をご利用ください。
- ④ Adobe Acrobat の保護モードが有効になっていると暗号化ファイルを利用できません。
 保護モードを無効に設定してください。設定手順については「6.2 AdobeReaderX 以降の保護モードについて」をご参照ください。
- ⑤ MS Office の保護ビューが起動すると暗号化ファイルを利用する事ができません。 起動する場合は、保護ビュー機能を働かないようにする設定してください。設定手順については「6.3 MicrosoftOffice の保護ビューについて」をご参照ください。
- MS Office の SharePoint/OneDrive 上での利用には対応しておりません。
 以下を推奨しております。
 - 暗号化ファイルをアップロードした場合はローカルにダウンロードし利用する。
 - 同期フォルダで暗号化ファイルは利用しない。

6.2 AdobeReaderX 以降の保護モードについて

暗号化された PDF ファイルを AdobeReaderX 以降で参照するには、保護モードを解除する必要が あります。保護モードを無効に設定するには、以下の手順を行います。

- ① メニューより「環境設定」を選択します。
- ② 分類から「セキュリティ(拡張)」を選択し、「起動時に保護モードを有効にする」のチェックを 外します。

境設定	
分類回:	サンドボックスによる保護
フルスクリーンモード ページ表示 一般 注釈 文書	

③ AdobeReader を再起動することで、保護モードが無効になります。

6.3 MicrosoftOffice の保護ビューについて

MicrosoftOffice2010以降でファイルサーバやメール添付された暗号化ファイルを参照するには、保護ビューの解除が必要になる場合があります。

保護ビューを無効にするには、以下の手順を Word、Excel、PowerPoint で行います。

- ① メニューより「ファイル」→「オプション」を選択します。
- ② 「Word のオプション」画面の左ペインより「セキュリティ センター」を選択し、「セキュリ ティ センターの設定」ボタンをクリックします。
- ③ 「セキュリティ センター」画面の左ペインより「保護ビュー」を選択し、チェックを外しま す。

セキュリティセンター	3
信頼できる発行元	保護ビュー
福和できる場所	保護ビューでは、セキュリティに関するメッセージを表示せずに、危険性のあるファイルを制限モードで開きます。これは、コンピューターへの悪影響を最小限に抑
信頼済みドキュメント	きるのに役立ちます。保護ビューを無効にすると、コンビューターがセキュリティの脅威にさらされる可能性があります。
信頼できるアドイン カタログ	□ インターネットから取場したファイルに対して、保護ビューを有効にする(1)
TEAN	□ ★全でおい可能性のある環所の7ァイルに対して、保護ビューを有効にする(L) ○ アー・トナーレー・ナーナ
Laborary colorer	Dutlookの添付ファイルに対して、保護ビューを有効にする(Q)③ ナエックを外します

本書に含まれるすべてのテキスト、図表は santec Japan 株式会社の独占的所有物であり、顧客の個人的かつ非営利目的での使用に供するものです。

santec Japan 株式会社からの文書による承諾なしに、本内容のいかなる部分をも、いかようにも、修 正し、複写し、配布し、送信し、展示し、実演し、再生し、出版し、ライセンスし、類似物を製作 し、譲渡し、使用もしくは販売することはできません。

本書の情報は、通告なしに変更される場合があり、santec Japan 株式会社の側に責任あるいは説明義務が生じることはありません。

その他記載の会社名や商品名は、それぞれ各社・各団体の商標または登録商標です。

Copyright © 2025 Santec Japan Corporation